

Marek Szpakiewicz

Live in Tokyo 2015



『Live in Tokyo 2015 / Marek Szpakiewicz』

『マレック・シュパキエヴィッチ チェロ・リサイタル in 東京 2015』

performed by Marek Szpakiewicz (cello) and Jiayi Shi (piano)

演奏：マレック・シュパキエヴィッチ（チェロ）、ジアイ・シー（ピアノ）

- M-01 Antonín Dvořák (arr. by Szpakiewicz): Slavonic Dance in E minor, Op.72-2
アントニン・ドヴォルザーク（シュパキエヴィッチ編）：スラヴ舞曲 ホ短調 作品 72-2
- M-02 Fryderyk Chopin: Cello Sonata in G minor, Op.65
フレデリック・ショパン：チェロ・ソナタ ト短調 作品 65 I. Allegro moderato
- M-03 Fryderyk Chopin: Cello Sonata in G minor, Op.65
フレデリック・ショパン：チェロ・ソナタ ト短調 作品 65 II. Scherzo
- M-04 Fryderyk Chopin: Cello Sonata in G minor, Op.65
フレデリック・ショパン：チェロ・ソナタ ト短調 作品 65 III. Largo
- M-05 Fryderyk Chopin: Cello Sonata in G minor, Op.65
フレデリック・ショパン：チェロ・ソナタ ト短調 作品 65 IV. Finale. Allegro
- M-06 Dmitri Shostakovich: Cello Sonata in D minor, Op.40
ドミートリイ・ショスタコーヴィチ：チェロ・ソナタ 二短調 作品 40 I. Allegro non troppo
- M-07 Dmitri Shostakovich: Cello Sonata in D minor, Op.40
ドミートリイ・ショスタコーヴィチ：チェロ・ソナタ 二短調 作品 40 II. Allegro
- M-08 Dmitri Shostakovich: Cello Sonata in D minor, Op.40
ドミートリイ・ショスタコーヴィチ：チェロ・ソナタ 二短調 作品 40 III. Largo
- M-09 Dmitri Shostakovich: Cello Sonata in D minor, Op.40
ドミートリイ・ショスタコーヴィチ：チェロ・ソナタ 二短調 作品 40
IV. Allegro
- M-10 Astor Piazzolla: Le Grand Tango
アストル・ピアソラ：ル・グラン・タンゴ
- M-11 Fritz Kreisler: Liebesleid
フリッツ・クライスラー：愛の悲しみ（Tsunami Cello による演奏）

DSD LIVE Recorded at Oji hall, March 27th, 2015, Tokyo

Balance engineer: Seigen Ono

SDSD-1039 P+C 2016 SDM&LiveRec Marek Szpakiewicz POS: 4560277420421

**SDM&
LiveRec**



批評家より「一つひとつの音を精魂込めて追求しながら丹念に情景を描いて行く独自の解釈は、芸術的高みへと収斂」と称された、妥協を許さないシュパキエヴィッチの演奏を捉えるため、2015年3月27日の初来日リサイタル(王子ホール)は、オノセイゲン氏によりマイク2本だけでDSD録音されました。

DSD(ダイレクト・ストリーム・デジタル)は1974年、山崎芳男早稲田大学名誉教授による1ビット方式の提唱に始まり、1994年からソニーが次世代メディアとして開発に着手し、1998年にはスーパーオーディオCD(フィリップスと共同)のための業務用DSDレコーダーを発表したことで生まれ育ったMade in Japanの技術です。オノ氏は坂本龍一「戦場のメリークリスマス」や、マイルス・デイヴィスらのプロジェクトに参加するなど、著名なアーティストから絶大な信頼を得ています。「DSDは、はじめて録音と再生でまったく同じ音がするレコーダー」と、プロの現場でいち早く運用を開始しました。



オノセイゲン氏と2015年初来日リサイタル(王子ホール)にて

「DSDは、僕たち演奏家がリサイタルで観客の方に伝えたいと思って作った音を、妥協することなく、まるでその会場で聴いているかのように再現できる革新的なテクノロジー。この収録は今までの僕の録音の中で、微妙なニュアンスまで一番よく伝わるのではと思うのです。」— マレック・シュパキエヴィッチ

「まずは完璧な演奏ありきで、ピアノッシモ、空間、静寂、音色、響きという要素が重大な意味をもつ音楽(や音の空間)は、マイク位置さえ間違えなければ、実はDSDで確実に伝えることができます。だからマレックさんのレコーディングはDSDで収録しました。」— オノセイゲン

(2016年リサイタルのプログラムより)

DSD Live recording produced by Seigen Ono and Marek Szpakiewicz

リサイタル制作：株式会社 1002

Special thanks to 駐日ポーランド共和国大使館、ポーランド広報文化センター、マルタ・カルシ
一般社団法人エル・システムジャパン、一般財団法人 Classic for Japan、小山一彦、泉邦昭

マレック・シュパキエヴィッチ（チェロ）

Marek Szpakiewicz, cello

ポーランド生まれロサンゼルス在住のチェロ奏者マレック・シュパキエヴィッチは、ヨーヨー・マ氏から「エネルギー、モチベーション、真摯さ、そして寛容な心を持っていることが自明なアーティスト」と評され、ピューリッツァー賞を受賞した作曲家ジョン・コリリアーノ氏から「シュパキエヴィッチ氏が演奏した私の作品『バッハのアリアによるファンシー（Fancy on a Bach Air）』は、素晴らしく華麗である」と、高い評価を得ている。

ポーランドのルブリン市にて6歳からチェロを始める。渡米し、ジョンズ・ホプキンス大学ピーボディー音楽院でステイヴン・ケイツ氏に師事。その後、南カリフォルニア大学ソロートン音楽学校でエレノア・ショーンフェルド女史に学び、音楽修士号と音楽芸術博士号を取得。ダニール・シャフラン、リン・ハレルの各氏ら著名なチェリストのレッスンを受講する。数々の国際コンクールで優勝、入賞し、ヨーロッパ各国とアメリカでソリストとして活躍。「天賦の才能ある演奏家」、「壮大なビジョンと計り知れない説得力を持つ」、「際限のない技術性」などと賞賛された。ポーランドとアメリカのラジオ局では生演奏が放送される他、非営利クラシック音楽放送局として全米一の規模を誇るKUSC局では、1時間の特別番組が制作された。イギリスの弦楽器雑誌『Strad』では、『プロッホ：ヘブライ狂詩曲「シェロモ」』のライブレコーディングに対して、「スコアを著しく正確に実現化したもの」と好評を受けた。

これまでアン・アキコ・マイヤース、岩崎洗などの名高い音楽家と共演している。また、グラミー賞を多数受賞したジャズ歌手のボビー・マクファーリンの歌と『ヴィヴァルディ：2つのチェロのための協奏曲』で共演し、マクファーリン氏には「彼の演奏技術は超絶そのもの、彼の音楽に対する真剣さ、誠実さとカリスマ的な性格によって生まれた素晴らしいパフォーマンスは、世界の人々に心の豊さを味わう機会を与えた。」と絶賛された。

そのほか、オーケストラ編曲の分野でも活躍し、映画音楽作曲家ヤン・A・Pカチュマレク氏の作品に携わる。共同で手掛けた映画音楽『ネバーランド』は2005年第77回アカデミー作曲賞を受賞。同氏の映画音楽では、リチャード・ギア主演『HACHI－約束の犬』（09年夏公開）や松井久子監督の『レオニー』（10年秋公開）などで、印象的なソロを聴かせた。08年アメリカ政府から「特殊で卓越能力をもつアーティスト」として永住権を授与された。アメリカ国内はもとより国際的称賛が継続し、これまでの業績が認められたためである。

11年には東日本大震災チャリティーコンサートを企画し、在ロサンゼルス日本国領事館の後援を受けて開催。ロサンゼルス郡参事のゼブ・ヤロスラフスキー氏とマイケル・アントノヴィッチ氏より、その献身的活動に対して表彰を受けた。

現在、カリフォルニアのアズサ・パシフィック大学音楽学部で教鞭をとり、室内楽のディレクターを務める。

使用楽器は1870年製ヴィオーム。

<http://szpakiewicz.com>

Tsunami ヴァイオリン - 千の音色でつなぐ絆 -

このプロジェクトは、東日本大震災の被災者支援のために、弦楽器製作者の中澤宗幸氏が被災地で生まれ育った木材でヴァイオリンを製作し、その楽器の演奏を通して被災された方を励まし、亡くなられた方に鎮魂の祈りを捧げ、震災でおきたことを風化させずに世代を超えて語りつないでいくと同時に、最も心にやさしい音楽として、より多くの方にクラシック音楽にふれていただくことを目的としています。

ヴァイオリン製作に使う木材は、奇跡の1本松や大切な思い出のつまった家屋の床柱や梁です。被災地で暮らす人々の歴史が刻まれた木を弦楽器として蘇らせ、世界中の千人のヴァイオリニストがリレーのようにその楽器を受け継ぎながら、千の音色を奏でその思いを繋げていくプロジェクトです。2012年3月11日よりリレーが始まり、世界中の演奏家1,000人によるリレー達成を目標に活動を行っています。

2014年6月現在、ヴァイオリン4挺、ヴィオラ2挺、チェロ1挺が制作され、世界中でその記憶を語り響かせつづけています。

主管財団法人 Classic for Japan

<http://www.classic-for-japan.or.jp>

